

平谷村の地域特性（気象、地形）活かした農業づくり研修所の設置

取組に至る背景・事業の目的

当組は、平谷村の地域特性（気象・地形）を活かした農業づくり（潜在需要のある山上げイチゴ苗の栽培受託）を事業主体に置き、事業を再開した。本事業を推進するにあたり、新規就農希望者への魅力ある農業の体験から就農研修後の自立を推進し、組合員として組合活動を促して活性化を図る必要がある。

事業内容

平谷村で山上げイチゴ苗栽培受託を基軸にした持続可能な農家づくり（一農家 10 万株）の自立実現を実証確認するための研修施設（ビニールハウス 200 ㎡）の増設を行う。

平谷村の季節特性（夏の涼しさ冬の厳しさ）を活かしたイチゴ苗を栽培する農業従事者を育成し、新たな産業として拡大するため、イチゴ苗栽培用の農業従事者育成研修施設を建設した。



【研修施設】

事業効果

山上げ苗の栽培受託に取り組み、初年度 2 万株、次年度 4 万株と拡大し、本年度は 10 万株の受託を実現した。今後はさらなる受託拡大（100 万株を超える数）が見込まれている。

現在、県の取り組む「農の雇用事業」をきっかけに、平谷村だからできる農業生産活動に魅力を感じ、平谷村で新規就農を希望する大阪出身元教員（34 歳）と京都出身元測量会社社員（23 歳）の若者 2 名が就農研修することになった。また、駒ヶ根市のイチゴ生産者と原村の鉢苗生産者が当組合への加入を予定している。これらにより本組合のさらなる活性化を図る。



【研修の様子】

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

1 工夫・苦労した点

- (1) 木造パネルで構造を単純化したが、積雪を考慮するため屋根部分の構造をパネルで強化したこと。
- (2) ビニール被覆を木造部に接触しないように張るため、下地（パイプ）作りを自前で曲げ加工し、取付けを行ったこと。

2 課題

屋根部分の強化により、日照に問題が生じた。

3 今後の取組

- (1) 県内で生産され始めた木材（ツーバイフォー材）を利用した、壁面が木材で屋根がパイプという、複合型にすることで、低コストで高機能なビニールハウスの設置を進め、林業事業者との共生を図る。
- (2) 本施設が、床張りされていることを活かす、床下に温水パイプを設置、製材所等で発生する薪で日中にお湯を沸かし、冬季の暖房設備として活用していく。
- (3) 恒常的に新規就農希望者を募り、応募状況に応じた 10 a 規模のハウスを増設し、1 研修社がイチゴ苗生産 10 万株の生産可能な環境整備を行い、前記に述べた受託が見込める 100 万株生産が可能な環境づくりを行っていく。

【選定のポイント】

研修施設で栽培したイチゴ苗の販売が好調で、少子高齢化が進む地域の新たな産業に成長しつつあり、地域活性化の取組みとして高く評価できる。

現在も県外から研修生を受け入れており、地域へ定住して農業従事することが期待できる

団体名	農事組合法人平谷村農業生産組合（平谷村）	事業タイプ	ハード事業
連絡先	0265-48-2550	事業費	3,800,000円
		支援金額	2,000,000円